



認知症サポーターキャラバン



斉藤好信

妻と二人暮らし
子供5人
孫13人

良くない対応

叱る
強制する
何もさせない
命令する
行動を制限する
子ども扱いする
役割を取り上げる



こんにちは

コロナ禍という困難と試練の中で、不自由な生活を余儀なくされていると思います。「冬は必ず春となる」という言葉があります。皆で互いに励ましあって乗り越えていきましょう。雪をかき分け春一番に咲く福寿草のように。

今回は 認知症の人への対応（接し方）

というテーマについてお届けします。

●基本姿勢●

認知症への対応の心得 3つの「ない！」

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない

記憶や物事を判断する「認知機能」が低下すると、何をするのにも「考える時間」が必要になりどうしても遅くなります。ここでポイントとなるのが、「できない」のではなく「時間をかければできることもある」という事です。

認知機能が低下していてもその時に抱いた感情は残っているので大きな声で「早くして！」と急がせたり、イライラした態度をとったり、「どうしてできないの？」「やってあげるから！」等と、自尊心を傷つけるような対応は、信頼関係に影響します。

信頼関係を損なうと本人は心を閉ざし、さらに“症状が進む”可能性があるるので気を付けましょう。





●具体的な対応の7つのポイント●

- 1 まずは見守る
- 2 後ろから声をかけない
- 3 声をかけるときは一人で
- 4 余裕をもって対応する
- 5 相手に目線を合わせて優しい口調で
- 6 おだやかではっきりした話し方で
- 7 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応

本人がやるべきことを忘れてたり何か探しているようだと感じたら、まず見守りし、相手の目線に合わせて優しい口調で「どうしたの？」と声をかけ返事を待ちます。(この時複数の人で話しかけると混乱し恐怖心を抱くこともあります。)
「朝ご飯を食べていない」「財布がない」と理由を話してくれたら、「お茶を飲んで待っててね」とお茶を出したり「一緒に探しましょう」と一緒に手伝う姿勢を見せましょう。(言いたがらない時は無理に聞き出そうとはせず見守ります。)

又認知症の症状は、身近な人に対して強く出る傾向があります。
介護に一番熱心な人を責めたり暴言を吐いたり、わがままを言うのは信頼の証です。

とは言っても、実際にひどい言葉や態度、何度も同じことを聞かれると腹が立ったりさみしくなったりします。

そんな時は何気なく話を変えたり、そっとその場から離れて一呼吸置くといいかもしれません。

と言うことは、相手を変えようと思う事は問題の解決にはならないということなのかも……
あ、夫婦も同じー？



次回の「ロバの会」通信をお楽しみに

【お問い合わせ】キャラバン・ロバの会(代表 齊藤千香子)
介護センターひまわり ☎ 090-6215-5822
地域包括支援センター ☎ 5-1165

